

The 22th annural meeting of the Japan Society for Respiratory Care and Rehabilitation

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/33592

『学会開催報告』

第22回日本呼吸ケア・リハビリテーション
学会学術集会を開催してThe 22th annual meeting of the Japan Society
for Respiratory Care and Rehabilitation福井大学大学院医学系研究科附属看護キャリアアップセンター長
福井大学医学部看護学科健康科学 教授
同 医学部附属病院呼吸器内科 科長

石 崎 武 志

第22回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会を2012年11月23日(金)・24日(土)、福井県福井市「フェニックス・プラザ」および福井市市民体育館で開催しました。本学会は呼吸ケアに携わる医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士、薬剤師、栄養士、および医療機器関連業者までの多職種の会員で構成される職能集団で、かつ学術集団でもあります。今回は本学会が一般社団法人化した後の最初の全国的学術集会でした。一般演題は過去最高の451題が採択され、発表されました。呼吸器疾患患者は人口の高齢化とともに増加の一途をたどりますが、質の高い医療・ケアを全国的に均てん化して提供できる医療体制には程遠いのが現実です。殊に、呼吸器科医の増加しない状況下では、多職種の医療従事者が連携し、発症初期から切れ目のない医療・ケアを提供することが重要です。そこで、今回は「チーム医療のさらなる展開を求めて」というテーマをかかげ、4つのシンポジウム、10のワークショップ、11の教育講演、3つの外国人研究者招請講演、4つの特別企画、10のランチョンセミナー等を準備しました。ポイントとなるシンポジウム、ワークショップは日本呼吸療法医学会との共同企画「RSTのあり方を考えるーチーム医療と人工呼吸管理」、日本病院薬剤師会/日本薬剤師会との共催「これからの吸入指導」、全国病院栄養士協議会との共同企画「呼吸ケアにおける栄養管理の重要性とチーム医療」などで、いずれも会場内は参加者であふれ、活発な討論が行われました。本学会員はあらゆる呼吸器疾患に対応しますが、主な対象疾患であるCOPDは現在700万人以上が罹患していると推定され、本年7月に厚生省から生活習慣病の一つとして取り上げられました。このCOPDを巡っては2つの外国人研究者招請講演(①New aspects of the pathobiology and new potential treatment strategies for COPD, ②NPPV- the evidence base and evolving areas), 教育講演1(GOLD2011 慢性閉塞性肺疾患の診断, 治療, 予防に関するグローバルストラテジー, シンポジウム1(初期から終末期までのCOPD管理ー医療連携に基づいて)5つのランチョンセミナー(①慢性閉塞性肺疾患(COPD)における多施設・他職種の連携, ②COPD患者の身体活動向上に向けてー呼吸リハビリテーションと薬物療法を含めて, ③新しいCOPDスクリーニング質問票(COPD-PS)の日本人カットポイント, ④COPDへのOnce-a-day LABAを中心とした新しい治療戦略, ⑤COPD患者は動くことが重要)とさまざまな角度から取り上げました。その他、改定された呼吸リハビリテーションマニュアル=運動療法, 間質性肺炎の運動療法, 高齢者喘息の診療, 医療・介護関連肺炎ー高齢者医療と新たな肺炎診療ガイドラインも教育講演としてとりあげら

れました。

さらに看護師向けとして、慢性呼吸器疾患看護認定看護師さんのチーム医療の中での呼吸ケア指導士への期待、訪問看護師と病院看護師との連携などもとりあげました。

また、今回から学会賞、学会奨励賞制度を設け、応募された優れた業績を審査し、前者は2つの個人ないしはグループに後者は3つのそれに授与されました。学会最終日の最後には発表された450演題の中から11演題の優秀演題が選ばれ賞されました。本学会への参加は日本呼吸器学会認定「呼吸器専門医」や「3学会合同呼吸療法認定士」資格更新の単位取得もでき、さらに、慢性呼吸器疾患看護認定看護師の資格更新の単位取得もできることもあり、会員が増え、学術集会参加者も増えました。

ポスター発表会場の中には34社からの最新の人工呼吸機器、酸素濃縮器、呼吸機能検査機器、排痰機器、薬剤などの展示もされ情報交換の場となりました。同会場の一角には会員の討論疲れを癒すべく暖かい紅茶コーナーを設けましたが、終日、にぎわっていました。

学術講演会と並行して、4つの教育的・実践的特別企画も行いました。①胸部X線像の読影基礎、②代表的呼吸器疾患の画像診断、③胸部身体所見の取り方、④呼吸いきいき教室、ですが、事前登録者に加え、当日受講者も加わり、50人の定員をはるかに超える参加者でした。

全国からの参加者は予想を超えて2000名強となり、本学術集会の歴史上、最高的人数となりました。そのため、学術集会第1日目、夕がたの福井市ホテルフジタでの懇親会場は人であふれ、料理があつという間もなくなり、余ると予想した冷酒もすっかりなくなるなど主催者側も狼狽しましたし、宿泊場所は福井市以外の鯖江市、芦原温泉、加賀市、金沢市と広域になり、会員には迷惑をかけることになりました。呼吸器系の全国的な学術集会として金沢大学第一外科渡辺洋宇先生が日本肺癌学会を金沢市で平成10年に開催されて以来の全国大会を福井大学医学部の小さな呼吸器グループと看護(キャリアアップ)グループが何とかやりおおせて、恩師の故宮保進先生に顔向けができるのも感無量です。

